

キングドニアの分類学的位置

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-10-03 キーワード: 作成者: 田村, 道夫, Tamura, Michio メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.24517/00055656 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



○ K. Bremer *Asteraceae-Cladistics and Classification* A5, 752pp. 1994. Timber Press, Portland.

1976年にThe genus *Relhania* (Compositae) およびThe genus *Leysera* (Compositae) の2篇の論文を書いて、植物分類学にはじめて分岐論をとりいれた著者が、以来20年近い年月をかけ5人の協力者を得て作りあげた新しいキク科の分類体系を解説したのが、この本である。構成は、序論篇と分類篇の2篇23章からなり、序論は分岐論・分類・形態・進化の4章、分類篇はバルナデシア亜科に始まる3亜科16連にそれぞれ1章をあて計19章から成る。たとえば、バルナデシア亜科(第5章)では生活形、葉腋の刺針の有無など22個の形態的形質を用い、コウヤボウキ連を外群としてつくられた最節約樹に基づき9属の系統関係を論じている。ところで、われわれはキク科の2亜科(キク亜科とタンポポ亜科)13連の分類体系に慣れているが、著者は1987年、分岐分類学的手法によって従来のコウヤボウキ連バルナデシア亜連(南米特産)は形態的に他のすべてのキク科植物の姉妹群に当たることを指摘、同年 Jansen and Palmer によってバルナデシア亜連の葉緑体DNAには22 kbpの大きな逆位配列があることが判明したと相まって、1992年バルナデシア亜科 *Barnadesioideae* (Benth.) K. Bremer et R. K. Jansen が提案され、今では3亜科体系は定着した。その結果、著者によれば、キク科はバルナデシア亜科・タンポポ亜科(コウヤボウキ連・アザミ連・アキノノゲシ連・ショウジョウハグマ連・リアベア連・アークトチス連)・シオン亜科(オグルマ連・プルケア連・ハハコグサ連・キンセンカ連・シオン連・キク連・キオン連・テンニンギク連・メナモミ連・ヒヨドリバナ連)の3亜科16連となった。日本のフロラでも最大の比重をしめるキク科の新しい分類体系として注目すべきである。現在、植物の系統樹作りを分子データのみでおこなうべきか、形態データと分子データを組み合わせておこなうべきか論争が盛んであるが、この本では少なくとも連や属の系統解析には分子データは全く使われていない。バルナデシア亜科同様、形態データと分子データによる分類群の認識が一致することは十分期待出来る。(清水建美)

田村道夫* : キングドニアの分類学的位置 Michio Tamura : Systematic position of the genus *Kingdonia*

キングドニアは中国西部(雲南西北部、四川、甘肅南部、山西西部)の高度2500-4000 mの亜高山帯の針葉樹林または針葉・広葉混交林のコケむした林床に生える多年草で、開放二分岐脈系と偶数(普通2本)の葉跡をもつことで多くの植物分類学者や形態学者の注意を引いてきた。この植物を記載した Balfour f. et W. Smith (1914) はこれをキンポウゲ科に分類した。このよう葉は被子植物ではまったく稀であり、Diels (1932) は同じような葉の性質を持つ *Circaeaster* との類縁を強調した。彼の意見に同調する人は多く、ランクや所属する科は違っても、Janchen (1949), Cronquist (1968), Thorne (1974) らは両者を同じ分類群に入れている。しかし、*Circaeaster* は *Kingdonia* やキンポウゲ科とは異なった独特の特徴を多く備え、キルカエアステル科とみなす意見が大勢を占めてきている。一方、*Kingdonia* はかなり特殊ではあるが、キンポウゲ科と相いれないのは沼生型胚乳形成くらいである。Airy Shaw (1966) や Dahlgren (1975) のように *Kingdonia* に対しても独立した単型科、キングドニア科をもうける処置もあるが、わざわざそのような処置をする必要はない。Takhtajan (1980) は、キンポウゲ科のなかの独立した亜科としているが、心皮の様子や胚珠の付きかたなどイチリンソウ連と同じである。キンポウゲ科イチリンソウ連のもとに単型のキングドニア亜連を置きたい。

いま述べたいろいろの群についてはそれぞれ学名がつけられているが、ラテン記載をともなっているのは王文采のキングドニア連だけであるので、それを亜連に組換える。

Rununculaceae Juss. **Anemoneae** W. T. Wang et C. Y. Chang

Kingdoniinae (W. T. Wang et C. Y. Chang) Janchen *ex* Tamura, comb. nov.

Kingdonieae W. T. WANG et C. Y. CHANG in ZHANG, *Acta Phytotax. Sin.* 20: 405 (1982). *Kingdoniinae* JANCHEN *Österr. Akad. Wiss. Math.-Naturwiss. Kl. Denkschr.* 108: 53, *nom. inval., excl. p.* (1984); TAMURA *Sci. Rep. Osaka Univ.* 16: 1967: 29, *nom. inval.* (1967). *Kingdonioideae* THORNE, *Aliso* 8: 180, *nom. inval., excl. p.* (1974); *Nordic J. Bot.* 3: 102, *nom. inval.* (1983); TAKHTAJAN, *Bot. Rev.* 46: 262, *nom. inval.* (1980).

Kingdoniaceae A. S. FOSTER *ex* AIRY SHAW In WILLIS, *Diction. Fl. Pl. Fern.*, ed. 7: 600, *nom. inval.* (1966); DAHLGREN, *Bot. Not.* 128: 125, *nom. inval.* (1975).

Circaeasteraceae (non HUTCH.) CRONQUIST, *Evol. Class. Fl. Pl.* 365, *p. p.* (1968); THORNE, *Nordic J. Bot.* 3: 102, *p. p.*

(*〒549-64 和歌山県那賀郡打田町 近畿大学生物理工学部 Kinki University, Utita, Naga-gun, Wakayama 549-64, Japan)